

信頼できるインターネット情報

■国立がん研究センター がん情報サービス

『がんになったら手にとるガイド』も、ホームページより無料で閲覧・印刷することができます。



<https://ganjoho.jp>



※トップページの右側にある「患者必携」の文字をクリックし、それぞれの本画像を開けて、ダウンロードも可能です。

※音声版の提供もあります。

沖縄県のがん情報、がん対策に関するサイト

■沖縄県がん診療連携協議会

うちなーがんネットがんじゅう

県内の患者さんやご家族向けの情報を掲載しています。

- がんについての情報
- 患者会の紹介
- 参考本や冊子の閲覧
- がんについての講演会のおしらせ

さらに、国立がん研究センターや沖縄県などのリンク先も多く、幅広いがん情報を得ることができます。



<https://www.okican.jp>



診断から治療までのながれ

がんと診断されてからもいろいろな検査が続きます。がんの広がりを見たり、あなたの体が、これから始まる治療を受けることができる状態かを調べます。早く治療してほしいと焦る気持ちや、がんが進行してしまうのではないかと心配になるかもしれません。しかしがんは、おおよそ月単位での進行です。主治医の説明を受けたら、セカンドオピニオンを取ったり、正しい情報を集めたりして、納得して治療を受けましょう。

1. 診断:がんかどうか調べる

病理検査・病理診断/CT検査 など

2. 病期決定:がんの広がりや進み具合を調べる

超音波検査/CT検査/MRI検査/PET検査 など

3. 治療前検査:治療が進められるかどうかを検査する

X線検査/心電図/呼吸機能検査/心臓超音波検査 など

4. 主治医からの説明

5. セカンドオピニオンの活用

6. 治療方針の決定

7. 治療が始まる

(診断から約1ヶ月後)

緩和療法
(痛みをとる治療など)

外科療法
(手術など)

薬物療法
(抗がん剤治療など)

放射線療法

入院 (一部例外あり)

がんと告げられたあなたへ



がんという言葉聞いて、あなたの心はさまざまな気持ちで揺れ動いているかもしれません。がんと診断を受け、人知れずそんな心の揺れと向き合っている人たちがいます。がん治療は、あなたやそんな方々に寄り添いたいと願う人たちとの協働作業です。

この冊子もいまのあなたに役立つ支援や情報をご紹介します、少しでもあなたの支えになることを願い、作成しました。この冊子が、あなたを支援する人たちとのかけはしになりますように。

がんと言われたとき、すぐに役立つヒント&リスト

がんと診断されてから、ショックで頭が真っ白かもしれません。けれど2～4週間という短い期間で、治療方針を決めなければいけないのが実情です。また、家庭や仕事の調整をしたり、支援制度を調べたりと、やるべきことはたくさんあります。そこで、治療が始まる前や後に役立つヒント&リストを準備しました。

がん治療は、あなたに寄り添いたいと願う人たちとの協働作業です。サポートしてくれる人たちと一緒にこのページを開きながら、これからの治療や生活の予定を考えていきましょう。



1 病名と病期を知る

P20・100・102

- 主治医から病名と病期（ステージ）、性質を紙に書いてもらいましょう。
- 現在の病状や今後の見通しを聞きましょう。
- いまできる治療法とその目的を理解しましょう。
- 説明を受けるときは、看護師などに立ち会ってもらい、ご家族や友人と一緒に聞きましょう。

2 がん相談支援センターを利用する

P10

- がん相談センターや連携室、看護師等に申し出て、主治医の説明を聞く十分な時間（30分以上）を調整してもらいましょう。
- 利用できる各種の窓口の連絡方法と、どんなときにどんなことが聞けるのか、確認しましょう。
- 地域で利用できる制度やサービスを確認しましょう。

3 主治医と話す

P16・18・21

- すすめられた治療法がなぜよいのか、標準治療または科学的根拠のある治療か確認しましょう。
- 副作用について、満足のいく説明と対応してもらいましょう。
- 補完代替療法・健康食品・サプリメントを利用するときは、良い点と悪い点を確認しましょう。
- 食事や薬についての説明を受けましょう。
- 治療結果や体調の記録を取って主治医に伝えましょう。

4 セカンドオピニオンを活用する

P22

- セカンドオピニオンで他の医師の意見を聞きましょう。
- 通院する医療機関の診療内容や体制を確認しましょう。

5 痛みやつらさを和らげる

P36・47・61

- 苦しいこと・つらいことはすべて主治医に伝えましょう。
- 痛みを完全に取ってもらいましょう。
- 気分の落ち込み・不安・不眠などについて、満足のいく説明と対応してもらいましょう。
- 呼吸苦、胸水、腹水、だるさ、食欲不振などの症状について、満足のいく説明と対応してもらいましょう。

6 すぐに仕事を辞めない

P10・78・80

- ひとりで悩まず、上司や職場に相談しましょう。
- 職場の就業規則や利用できる休暇制度を確認しましょう。
- 専門の相談窓口やがん相談支援センターを活用しましょう。

7 情報を集める

表紙裏・P10・21・22・24・100

- 一番の情報源は主治医です。しっかりコミュニケーションを取り、あなたに合った正確な情報を得ましょう。
- セカンドオピニオンは、正確な情報を得るためにも大切です。
- 本やインターネットには根拠のない情報があふれています。正しい情報を見極めましょう。
- 得られた情報の活用について、がん相談支援センターを利用して相談しましょう。

8 治療費の負担を減らす

P68

- 治療にかかる費用の目安について確認しましょう。
- 民間保険や高額療養費制度など各種制度の手続きをしましょう。

9 妊娠の可能性を知る

P19・48

- 男性女性ともに、選択した治療によっては不妊になる可能性があります。妊娠や出産に及ぼす影響について説明を受けましょう。
- がん治療が始まる前に、主治医に相談することが重要です。子どもを持つことの希望を主治医に伝えましょう。
- 治療によるセクシャリティの変化について知っておきましょう。

10 大事にしたいことを考える

P37・100・102

- 治療中の生活において、あなたが大事にしたいことを主治医に伝えましょう。
- これからのことについて主治医やご家族と話し合いましょ。
- 治療および生活の具体的な予定を考えましょう。